

●インタビュー

3つの取り組みを核に「ひかりTV 4K」のさらなる展開を加速

本年（2015年）2月、当初の計画より3年早く300万会員を達成したNTTぷららが運営するスマートTVサービス「ひかりTV」。これを記念して、去る4月22日にはノーベル物理学賞受賞者の中村修二教授による「特別講演会」も開催された。会社設立20周年の節目の年を迎えたNTTぷららの「ひかりTV」サービスのこれまでと今後の展開について、板東浩二代表取締役社長にお話をうかがった。

開始時の計画より3年早く、 本年2月末で300万会員を達成

——まずは、「ひかりTV」300万会員を達成され、おめでとうございます。これまでの想いと最近の取組み状況からお聞かせください。

板東 「ひかりTV」サービスは、NGNの商用スタートに合わせ2008年3月31日に、そのキラーサービスとして、VODと多チャンネル放送を開始しました。当時、映像配信サービスの難しさとリスクの高さから事業展開に懐疑的な見方をする方もいらっしゃいました。当初、毎年30万の会員数増加というビジネスプランを立てましたが、計画が甘すぎるといった批判もありました。しかし実際は本年2月、計画より3年早い約7年で会員数300万を達成できました。これもひとえに社員の頑張りや、関係者の皆様のご支援の賜物と感謝しております。サービスを開始し、まず、VODの国内マーケット構築に尽力してきました。現在のVOD再生回数は月2,500万回を超

えるまでに拡大しています。また、映像配信に加えて音楽配信やクラウドゲーム、ショッピングを始めとする様々な付加価値サービスの提供、さらには視聴端末のマルチデバイス化に加え、2014年10月には日本初の4K映像配信の商用サービスを開始しました。これらの取り組みをしっかりとやり抜いた結果として、約7年で日本最大のIPTVサービス事業者、スマートTV事業者になることができましたのではないかと考えております。

——300万会員突破の記念イベントとして、各論の頁でご紹介する「中村修二教授 特別講演会」を開催されましたが、目的は……。

板東 大学の同級生であった中村教授の偉業については、ノーベル賞受賞以前から注目していました。中村教授は、20世紀中は無理だと言われていた青色LEDへ挑戦をされ、私どもは「光ファイバー」を活用したサービスを拡大してきました。ジャンルは違



株式会社NTTぷらら 代表取締役社長
板東 浩二氏

ますが、同じように“光”へのチャレンジでした。目標に向かって、試行錯誤を繰り返しながら弛まぬ努力を続ける姿勢は、相通じるものがあると思えました。本年は会社設立20周年の節目の年でもあります。「ひかりTV」の発展を支えてくれた皆様への感謝の気持ちをお伝えしたいという想いと、もう1つは、スマートフォンやテレビのバックライト、信号機など世界中で活用されている青色LEDと同様に、我々も日本で世界に広げていくような商品・サービスを発信していきたいという願いや、新たな飛躍に向けてリスタートするという想いを込め、中村教授による特別講演会を開催しました。



300万会員突破記念「特別講演会」を開催

「ひかりTV 4K」のコンテンツ 拡充により会員増を目指す

——会社設立20周年の今年度の重点
施策をお聞かせください。

板東 今年度は、「ひかりTV 4K」の取り組みをさらに加速したいと思っています。具体的には、①4K-IP放送の提供開始、②4K-VODのコンテンツ拡大、③4K映像制作の新しい仕組み作りの3つを核に取り組みます。まず4K-IP放送については、4K-VODの商用サービスと並行してNTT東日本・NTT西日本の光回線を使い技術検証を実施してきましたが、会社設立20周年を迎える本年の12月に放送を開始する予定としています。2つ目は、4Kコンテンツの拡充です。コンテンツの充実が4Kテレビの普及を後押しすると考えています。4K-VODコンテンツは本年の3月末で276本まで拡大しました。現在(2015年4月末時点)、ハリウッド映画を4K配信しているのは、『ひかりTV』だけです。すでに日本最大のラインナップを誇っていますが、今年度末までには700本まで拡大することを目指しています。

——中村教授の4Kドキュメンタリー番組をナショナルジオグラフィックチャンネルと共同制作されましたが、今後も自ら4K映像制作に乗り出すこともお考えですか。

板東 当面はテレビ局様などとコラボレーションさせていただきながら話題性のあるコンテンツを制作し、4K共同プロジェクトを積極的に展開していきたいと思っています。テレビ東京さんの番組については、地上波

番組の4K見逃し配信に加え、地上波放送前に先行して、独占で4K-VODの提供を実施しています。この取り組みのインパクトは非常に大きかったですね。テレビ局様とのアライアンス強化を図る一方で、4Kの映像制作については、アマチュアが参加できる4Kコンテンツ制作の可能性にも注目しています。YouTubeに代表されるように、自身で撮影した映像をインターネットにアップロードするアマチュアの方々も増えてきました。当社もオープンな仕組みで多くの方が4Kコンテンツを制作できる機会を作り、作品を拡充していきたいと考えています。具体的には当社が4Kのカメラやモニターなど編集機材を調達し、映像専門学校 학생さんや個人のクリエイター、更には映像制作会社などに貸し出しをして映像を制作してもらうような仕組みを検討しています。クオリティの高い4Kコンテンツは「ひかりTV 4K」のプラットフォームに乗せて世の中に配信するといった活動にも取り組みたいと思っています。

2016年3月末の会員数315万が 最低目標

——最後に今後のビジネスの抱負をお聞かせください。

板東 会員数につきましては、200万人から300万人に到達するまでに3年かかっているの、このところの伸び率そのものは鈍化していると言わざるを得ません。今後はNTT東日本・NTT西日本の光コラボレーションモデルを活用して会員数をど



「ひかりTV 4K」
サービスの
PR用キャラクター

こまで伸ばせるかが鍵になります。本年2月からは光コラボに対応した「ぶらら光」とセットでお申込みいただくことで『ひかりTV』をお安くご利用いただけるメニューの提供を始めました。また、新たな販売チャネルの構築も進めていきます。2016年3月末には最低でも315万の会員数を達成したいと思っています。私自身は、ここ数年でテレビそのものを大きく変えたいと思っています。テレビは白黒がカラーになり、アナログからデジタルになりましたが、機能そのものはさほど変わっていません。今後、テレビのネット接続率がさらに高まることで、ビジネスチャンスも拡大すると捉えています。スマホと同じように、テレビ画面を通していろんなアプリケーションが利用できるようになります。幸い、4K対応のチューナー内蔵テレビも、開始当初はシャープ社だけでしたが、本年の3月に東芝社、さらに今後はソニー社、LG社、パナソニック社が加わり対応機種が拡大します。IP放送とVODの両方で4Kを提供できる最先端のスマートTV事業者として、今後も全力で取り組んでいきます。

——本日は有難うございました。

(聞き手・構成:特別編集委員 河西義人)